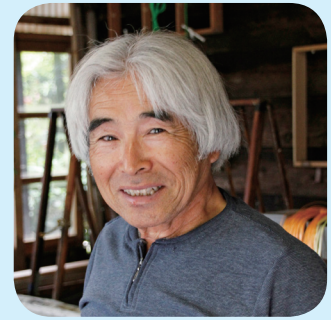


キラリ★八代人



矢壁 政幸さん（妙見町）

約400年の歴史がある宮地手すき和紙。宮地に紙すきを伝えた柳川藩御用紙すき職人である矢壁（矢箇部）新左衛門の子孫、矢壁政幸さんは現在ただ一人の職人だ。

「この家に生まれたからには自分が紙すきの技術を絶やすわけにはいかない」。矢壁さんは崇城大学の技師として勤める傍ら、父親から指導を受け、紙すきの技術を学び、退職を機に本格的に取り組んだ。

和紙の作り方はまず、コウゾ、ミツマタを煮て、洗い、繊維以外の不純物を取り除く。その後、繊維を細かくほぐし、紙すきを行う。このような工程を経て手間をかけて作られる和紙には、独特の柔らかな手触りと丈夫さが生まれる。

「やりがいを感じるのには良い作品ができたとき。用途に応じて材料や

伝統と技術を引き継ぎ、次世代へ



▲昨年の宮地わ・わ・わフェスタでの展示作品

比率、染め方を変える難しさはあるが、昔のすばらしい和紙を再現できるように頑張りたい」とさらなる技術の向上に意欲を燃やす。

また、たくさんの人に伝統ある手すき和紙が八代にあることを知ってもらいたいとの思いから、小中学校の卒業証書の制作や各地で個展を定期的に言い、手すき和紙の魅力を伝えていく。昨年は八代妙見祭の神幸行列のひとつ「白和幣」の一団が持つ御幣（ごひ）の材料である手すき和紙を制作し、提供した。「毎年作り替えるものなので、ぜひ今年も提供したい。今後は、地域の子どもたちと一緒に手すき和紙を使ったものを作れたらうれしい」と抱負を語る。

これからも紙すきの伝統と技術を守り、新しい可能性を開拓していく。

先輩社員の声

- 各部署がチームワークを取りながら目標を達成したときに一番やりがいを感じます。（事務職・女性・40歳）



- 厳しいときは厳しくするなどけじめをつけながら仕事ができています。社長賞や優秀賞で仕事の成果が認められ、継続した頑張りの分だけ自分に返ってくるのでやる気が出ます。（配車業・男性・42歳）

副社長メッセージ

弊社は1964年の創業から約55年間地場企業として地域に密着した営業展開を心がけてきました。

安全、確実、迅速を経営理念に、安全・品質・環境保全のさらなる向上に取り組んでいます。お客様優先の精神に徹して、安心と満足を得られるサービスを提供するとともに、地域の発展に貢献できる企業であり続ける努力を惜みず継続していきます。



発見★元気印の会社 15

今月の元気印の会社は平成30年12月19日に本市と立地協定を締結した「エムテックサービス株式会社」です。



《会社概要》 エムテックサービス株式会社

代表取締役社長 小橋 里嘉
取締役副社長 藤田 孝美
所在地 八代市建馬町4番31号
☎ 33 - 8338

HP <http://www.mertechservice.co.jp/>

従業員数 70人

事業内容 運送業、営業倉庫業など

